

環境についての約束

生物多様性への対応

森林保全活動の展開

セブン&アイHLDGSでは、生物多様性の保全やCO₂排出抑制のために国内外で森林保全活動を展開しています。

インドネシアでは、生物多様性の保全と気候変動対策に効果があり、同時に住民の生活も向上させる「REDD+」プロジェクトを2010年からメルベチーリ国立公園（約58,000ヘクタール）で実施しました。気候変動の要因の一つである森林減少・劣化によるCO₂放出を抑えるとともにCO₂の吸収を促進させ、また多様な生物が暮らす場所を維持することを目的に支援を行いました。

国内ではセブン-イレブン記念財団とともに、森林整備を促進させるプロジェクトを2012年6月から長野県坂城町で開始しました。日本では整備がされずに放置された人工林が多くありCO₂の吸収など森林が十分な機能を果たしていません。間伐や下草刈り、樹種転換などの森林整備を行うことで、生物多様性の保全と調和した持続可能な森林保全活動を目指しています。

さらに、森林から得られる木質材の活用も進めています。2012年11月にオープンしたアリオ鷺宮をはじめ3店舗では、間伐材を利用したリサイクルボックスやベンチを設置しています。また、グループで商品化や事務備品としての使用も開始しており、今後も活用を促進していく計画です。

また、グループの従業員やセブン-イレブンの加盟店オーナーによる森林整備活動も定期的を実施しており、2013年6月までに4回開催し合計262人が参加しました。



間伐材を利用したリサイクルBOX